

鏡川流域パートナーシップだより No.49 R5.5.9



新エネルギー・環境政策課では、高知市の清潔なまちのシンボルである鏡川の美しい景観や自然環境を保全するため、鏡川流域の自然と人、人と人との関わりとつながり(鏡川流域パートナーシップ)の拡大を目指しています。「鏡川流域パートナーシップだより」では、鏡川流域パートナーシップ推進に向けたさまざまな取組を楽しく紹介します！

課題探求！高知大学地域協働学部1回生が鏡川流域を「知る」

4月26日(水)に、高知大学地域協働学部1回生を対象にした「課題探求実践セミナー」の授業で、鏡川の概要や鏡川流域関係人口創出事業の取組などの講義を行いました。この講義は、5月10日(水)に予定されている鏡川河畔を歩いて清掃活動を行う課外学習のための事前学習として実施し、学生の皆さんに鏡川の魅力や課題などを紹介しました。



鏡川流域関係人口創出事業の取組として、まちのコイン「ぼっちり」を導入し、自然と人・人と人の関わりを促進させることで鏡川流域の自然環境を保全していることを説明しました。授業の後半ではほとんどの学生さんが「ぼっちり」をインストールし、「講義を聞いてくれたら100ぼっちり」という体験チケットをさっそく利用して100ぼっちりを受け取っていました。また、高知大学地域協働学部の中庭が「中庭気ままベンチ」という「ぼっちり」のスポットとなっており、このスポットが発行している体験チケットを利用している学生さんもありました。

☞ 学生さんのレポート(講義の感想や課外実習への意気込みなど)一部抜粋

現地調査では、鏡川に少しでも関わることを目標に取り組みたいと感じました。大きいイベントを開くことができれば、鏡川のことを知ってもらえ、貢献しているようにも見えますが、それだけが関わりではないので、今回の現地調査を通してまずは鏡川はどんな川なのか、どんな人が鏡川を訪れているのかなど、高知市に根付いている鏡川を「知る」ことから始めていきたいです。そうすることで、鏡川流域に関わる人になるきっかけの第一歩にしたいです。

鏡川の関係人口となって、鏡川の自然や問題点を探して考え、少しでも鏡川に貢献できるようにしたいです。ぼっちりの仕組みはすごく良いなと思いました。通貨を地域に絡めて交換し合うことで、地域活性化にもつながり、人口減少も食い止められると思いました。私も地域に関心を持ち、まだ知られていない鏡川の問題を発見したいと思います。また、人々が訪れやすいようなぼっちりのイベント内容も考えてみたいです。

鏡川のイメージは、「きれい」「大学の近くを流れる川」「人の集う活気のある場所」という答えしか出なかった。鏡川で起きている問題(人口減少や高齢化による景観保全のための活動ができない、ごみ問題)に対する意識がなかった。私も高知に移住、流域にすむものとして関係人口になる。次回のごみ拾いでは“清掃を通した関係人口”であることを意識して、ワークに取り組みたい。

また、講義の日の夜、高知大学の教授と学生さんが運営するぼっちりのスポット「Café satobito」にて、地域課題や未来を考えるトークセッションイベントが開催されました。講義に参加していた地域協働学部1回生2名がこのイベントにも参加し、「ぼっちり」などを通じて多様な人たちと交流していました。この学生さんは鏡川流域関係人口講座受講生が作成した「ぼっちり」の体験チケットも積極的に利用しています。学生の皆さんには、5月10日(水)の課外学習はもちろん、それ以外の場面でも「ぼっちり」を活用して鏡川に関わってもらえればと思います。



鏡川流域関係人口のつながりを可視化し、循環を促進するために、スマホアプリ「まちのコイン」を導入しました。高知市のコイン名称は「ぼっちり」です。鏡川がつながる山、川、海、人のたくさんの「ちょうどいい」関わりを未来へと繋いでいきたいという意味が込められています。ユーザー、スポット募集中です！

※「ぼっちり」の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://cms4.city.kochi.kochi.jp/soshiki/186/machinocoin.html>

「まちのコイン」のインストール



iPhone

Android